

1

説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～5◆

【指導のポイント】

- ★同じ内容を言い換えている言葉を捉えさせる。
- ★指示語が指す内容を的確に捉えさせる。
- ★筆者の考えを捉えることによって、要旨を理解できるようにする。

問題番号	演習問題	指導内容・留意事項など
(P4) (1)	最後の文で言い換えられていることを読み取らせる。 内面にわき起こった感情 = 感じたり考えていること = 語る言葉が乏しいと = 残っていない = いつしか消えてしまう	9行目の「多いのは五色らしい」に注目。虹の色の数え方について述べていることに気付かせる。8行目に虹の色は「日本では七色だと言われている」とある。 ——線②直前の順接の接続語「それで」に注目させ、前の部分で筆者が母を「怖かった」と思っていたという理由を述べていることを捉えさせる。一方で、直後に「嫌いでは」なかったとも述べており、筆者がこの二つの感情を作文に表現できなかったことを読み取らせる。 指示語は直前の内容を指すことが多いので、直前に注目。「母の怖さはやさしさだ」という表現に、母の厳しさは愛情から出たものだと受け取るようにするという筆者の思いが込められている。直後の段落で「茶碗」という具体例を挙げて二つの道筋について触れた後、端的に言い換えていることを捉えさせる。 直後の文で同じ内容を言い換えていることに気付かせる。「内容をとらえ直そう」で確認した箇所である。36・37行目に「言葉」は「器」にたとえることができる。また、直後にも「言葉」という器」という表現があることに注目。「器」が「言葉」のたとえであることから、「器収集先行型」＝「言葉を先に入れておく」方法であると気付かせる。 選択肢と本文を丁寧に照合させる。アは41・42行目で言葉を先に知る「器収集先行型」も「面白い」と述べているので×。イは22行目に「母のことは……嫌いではありませんでした」とあるので×。ウは39・40行目に「言葉にできれば……安定して残る」とあるので×。
(P5) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)		

重要語句

- 美学＝自然・芸術における美について解明する学問。
- ジネクス＝関係があると思われる事柄。
- 対＝二つで一組となっていること。

2

説明的文章(2)

◆指導ページ P.6～9◆

【指導のポイント】

- ★筆者の考えを理由とともに的確に捉えさせる。
- ★指示語が指す内容を正確に捉えられるようにする。
- ★文脈をつかませ、論の展開方法を理解させる。

問題番号	演習問題	指導内容・留意事項など
(P8) (1)	27・28行目に注目。 農耕民族(米中心の農耕)＝弥生時代 ⇔ 「中国からはいつてきた」 海辺の民(海産物中心の食生活)＝縄文時代 指示語は、多くの場合直前の内容を指すことから、直前の「米は日本が原産地ではない」に注目させる。指示語にあてはめてみて文の意味が通るかどうかが確認させる。	「内容をとらえ直そう」を生かす。直後の内容に注目させ、空欄前後の言葉と照合のあと、字数をヒントに書きぬかせる。 西暦七〇一年(いまから一三〇〇年まえ) それまでの貢納品＝たいいてい海産物＝魚・貝・塩 → 根拠 (献上)
(P9) (2) (3) (4) (5) (6) (7)		『古事記』『日本書紀』＝天皇↑豪族 第一段落の内容を整理して捉えさせる。 ① 2・3行目↓二三〇〇年まえ＝米が中国からはいる ② 4～6行目↓一三〇〇年まえ＝米が貢納品となる ③ 指示語の問題なので、空欄前後の言葉を手がかりに、直前の内容から字数に合うように書きぬかせる。 アジア大陸から米がはいってくる以前 ＝多数の日本人がこの列島に住んでいた ＝証拠 その人たち↓食生活の中心は海産物 ↑ ④ 直後の「その証拠に」に注目。「文章の流れをつかもう」でまとめたことが生かせる問題である。 ふるい貝塚が日本中にいっぱいある＝縄文時代 「これは、……ことをしめす」の「これ」が指す内容に注目。 ＝証拠 ・祭祀場とみられる巨柱跡の発見 ・五〇〇〇年まえぐらいの漆塗りの櫛の出土 選択肢と文章の内容を丁寧に照合させる。また、「文章の流れをつかもう」内容をとらえ直そう」を確認させる。イは、27～29行目の内容と合致。

重要語句

- ノシアワビ＝アワビの肉を薄くはいで乾かしたもの。
- ポピュラー＝広く普及している様子。

3

古典

【指導のポイント】

◆指導ページ P.10～13◆

- ★歴史的仮名遣いのきまりを覚えさせる。
- ★現代語にはない古語の意味を捉えさせる。
- ★現代語訳と対照させながら読ませ、省略されている言葉に注意させながら文脈をつかむよう指導する。

問題番号	演習問題	指導内容・留意事項など
(P12)1 (1)	(1)	「整理しよう」を活用し、基本的な歴史的仮名遣いのきまりを理解させる。a 「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」と読む。ただし、助詞の「を」は、そのまま読む。b 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・ほ」と読む。ただし、「は」は、そのまま読む。
(2)	(2)	『枕草子』第一段を復習させる。「夏は夜。月のころはさらなり」(月のころは言うまでもない)。「遠き所↑さらなり(言うまでもない)」
(3)	(3)	⇔ 同じ都の内ながらも隔たりて… 現代語訳と丁寧に対照させながら読ませる。 おこたりたるよし、消息聞くも
(4)	(4)	よくなったという話を聞くことも 古文は、助詞の省略が多いので補って意味を捉えさせる。 重要古語。「たいへん」「とても」という意味。
(1)	(1)	a・b 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読むきまりなので、a 「ふ」↓「う」「へ」↓「え」、「ひ」↓「い」と読む。c 「ゑ」↓「え」。d 「e+u」は「yô(よう)」と読むので、「けう(けう)」「きよう(きよう)」「a+u」は「ô(おう)」と読むので、「やう(ya u)」「よう(yô)」となる。
(2)	(2)	主語(動作主)を捉えながら読むくせをつけさせる。 A 「御子はおはすや」と尋ねたのは、「ある荒夷の恐れげなる」であることをまず捉えさせる。現代語訳も参照させ、「仲間の人に向かつて」とあることに気付かせる。
(3)	(3)	B 「おはす」＝「いる」の尊敬語。いらっしやる。尋ねている部分なので、「や」は「か」という疑問を表している。 「情なき」＝「情(じょう)がない」。「情けがない」という意味ではないので、注意して指導する。
(4)	(4)	慈悲(主語)↓ありなんや(述語)という関係を押さえる。 「持ちて」の対象が「子」になっていることを押さえる。選んだものを実際にあてはめてみて確認させる。
(5)	(5)	○やんごとなし＝身分が高い

重要語句

○やんごとなし＝身分が高い

4

文学的文章

【指導のポイント】

◆指導ページ P.14～17◆

- ★登場人物の人物設定や状況、場面の様子についての的確に捉えさせる。
- ★登場人物の言動に注目させ、気持ちを読み取らせる。
- ★登場人物の発言や行動の理由を捉えさせる。

問題番号	演習問題	指導内容・留意事項など
(P16)	(1)	「内容をとらえ直そう」でまとめたように、「私」の心の中の言葉(独白部分)に注目させる。この文章全体が、「私」の目線で書かれていることに気付かせる。 「私」が置かれた状況と直前の日向子の発言に対する「私」の気持ちを押さえる。 「私」＝風邪をひいて熱がある ⇔ 「日向子」＝「ごはんどうすんの」：母を心配していない 7～10行目に注目。「私」の理想の母子像と現実の違いを対比して捉えさせる。 理想像⇨いっしょに洋服を買いに行くような母子 ⇔ 現実⇨「私」の風邪よりごはんのことを心配する ・ 背ばかりずんずんのびて真っ黒に日焼け ・ 女装をした体育会系の男みたい・ジャージリか着ない それぞれの空欄前後の内容に注目。
(P17)	(2)	A 熱がある「私」が体温計を取ろうとしている場面。 B 直前の「図体のかい長男みたいに」に合うものを選ぶ。 20行目の「私」の言葉の「頼むから」に気付かせる。 「内容をとらえ直そう」で確認したことを生かす。 直前の夫の発言について、「また」に注目し、前どの内容と同じなのかを捉えさせる。 「おい、どうした、……ごはんは？」↓夫 ⇨ またこれ ⇨ (同じ)反応 「ごはんどうすんの」↓日向子 「私」の気持ちと家族の反応のすれ違いを読み取らせる。
(6)	(6)	A 「私」：病気の身をいたわってほしい ↓ 「熱が四十二度」⇨少し誇張した言い方
(7)	(7)	B 「夫」：ごはんをつくる人がいない↓出前を頼もう 熱がある自分のことを誰も心配せず、ごはんのことばかり心配し、挙句の果てには楽しそうに出前の相談を始めた家族に対する「私」の気持ちを考えさせる。

重要語句

○介護＝身体や精神が健全でない人の行為を助ける世話。